

## 農家を苦しめる困った仲間たち



アナグマ(イタチ科)

田んぼに集まってくるカエルを狙ってやってきます。穴を掘るのが得意で、田んぼのあぜに穴を開けてしまい、決壊の原因になることがあります。畑の作物も穴をあけて食べたりします。



イノシシ(イノシシ科)

体についた寄生虫を落とすために田んぼの中で泥浴びをします。倒された稲の帯は獣臭がついて出荷できません。泥浴びをしたあとは体を木にごすりつけて泥を落とします。本当に来ないでほしい…。



スズメ(スズメ科)

稲や麦などを狙って田んぼにやってきます。田んぼや畑のかかしなどはスズメを追い払うために考案されたと言われています。スズメに慣れさせないよう位置を頻繁に変えることも大切です。

地元トーク

### 石口博雄さん

稲刈りイベント講師をしてくださった石口さんにコメントをいただきました!

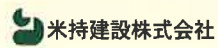
「イベント当日は天候にも恵まれ無事にみなさんと楽しく稲刈りができました。毎年来てくださっている方は手際も良く、作業がどんどん上手になっていると感心しました。来年は時間があれば、藁で縄を作ることができる「つなぎ」という技をみなさんに教えたいと思っています! 今回もたくさんの方と交流することができて楽しかったです。大変ご苦労さまでした。来年も是非、家族や友達にも声を掛けてみんなで来てください! これからもまつだい棚田バンクを応援よろしくお願いします。」



## 大地の酒

まつだい棚田バンクが栽培した酒米(五百万石)から若井明夫さんと一緒に酒造したどぶろくです。どぶろくは昔から「豊作を祈願するための神聖なお酒」として親しまれてきました。滑らかな口あたりと、きりっとした味わいをぜひお楽しみください! 里山現代美術館 キナーレのミュージアムショップにて販売中です。

棚田バンク企業オーナー(全8社、内ロゴ掲載希望企業)



### まつだい棚田バンク公式 facebook

2週間に1度更新しています。日々の田んぼ作業のことやその時の旬なネタなどを紹介していきます。「いいね!」やフォローをお願いします。

ECHIGO-TSUMARI  
ART FIELD

かわら版

Autumn 2018

まつだい  
棚田バンク



## 稲刈りイベントが開催されました！



刈った直後の稲は水分量が多く、そのままだと品質が悪くなってしまうため、ハセ掛けをして稲を乾燥させます。

ハセ掛けの際、稲を手渡し出来ないくらいの高さに達すると稲を投げて渡します。子ども達も積極的にチャレンジしていました。キャッチする人と投げる人の息が合わなければできない難しい技！

9/22・23に稲刈りイベントが開催されました。2日間で総勢250名以上の方にご参加いただき、大変嬉しく思います。春に自らの手で植えた稲をまた自らの手で刈る達成感と喜びをみなさん嘸みしめつつ、稲を藁で結ぶやり方や投げ上げる様子など地元の方々の手際の良さに拍手が起きていました。生き物観察会も行われ、子ども達はアカハライモリやカエルなどを捕まえて大喜び！交流会では、越後まつだい里山食堂の美味しい食事を楽しみながら語り合いました。また、室野神楽保存会の方々によるパフォーマンスや、毎年恒例(?) 鞍掛純一先生(日本大学芸術学部教授/彫刻家)の誕生日サプライズが行われるなど、会場は大盛り上がりでした。今回ご参加いただいたみなさま本当にありがとうございました。是非また来年の田植えイベントでお会いできることを楽しみにしております。



地元の先生が優しく丁寧に教えてくれます！みなさん熟練の技のすごさに目が輝いていました。



交流会も賑わいました！

## TOPICS

### 棚田保全の次は、里山保全 「里山の風景と文化のフィールドミュージアム」プロジェクト

まつだい「農舞台」の南側に広がる城山一帯に手を加え、新しい里山の風景を作り出そうと、今年から動き始めました。具体的には、荒地だった場所を開墾し有機栽培畑として耕作を始め、暗い印象だった杉林を間伐や枝打ちによって光の入る空間にしました。また、芸術祭期間中に行った城山散策ツアーでは、自然観察だけではなく、野菜の収穫体験や8月に完成した森林内の広場と園路の散策もしました。今後も様々な展開をしていきますので、農舞台城山にも遊びに来てください

